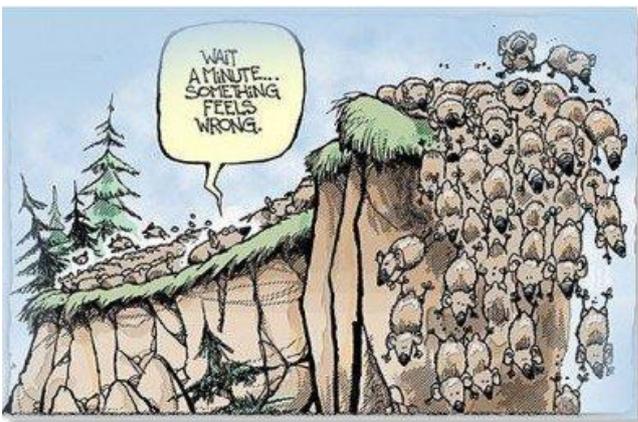


“陰謀論” に対する主流メディアの分裂症的態度

【訳者注】この論文によって、陰謀と陰謀論についてのややこしい“力学的”関係がわかりやすくなったと思う。陰謀を企て、陰謀によって世界支配を企む者たちが、自分たちに不利な、良心的な証言をする“危険”人物を“陰謀論者”と呼んで、最初は嘲笑するが、後には彼らを、テロリストと同じ社会への脅威だとして弾圧する。ここで困るのは、この私のような発言をする者を、世界の大新聞がこぞって権力者の側に立ち、無視あるいは敵視することである。とはいえメディアは、このままでは、世界的大犯罪の共犯者になることになることを知っている。これは権力的な綱引きであると同時に、心理（良心）的な綱引きでもある。ここで紹介するほとんどの論者が言っているように、我々一人ひとりが“メディア”となつて、自他を覚醒するしかないのである。

By Seppo Ilmarinen

Global Research, April 12, 2015



2月下旬、フィンランドのタブロイド紙 [Iltalehti](http://www.iltalehti.fi) が、陰謀論についてセンセーショナルな見出しでニュースを発表した——

http://www.iltalehti.fi/digi/2015022619264197_du.shtml

これで証明された——陰謀論者とは泡の中に住む阿呆のことだ

インターネットは良くも悪くも情報の高速道路である。それは、ネット上ではすべての内容が平等だからで、信頼するに足る内容が、あらゆる種類の誤った情報の中で、注目されようと競争している。いろいろある中でも、陰謀論やタチの悪い代替メディアが、

ネットの奥深くで広く行きわたっている。

うわさやプロパガンダ、その他のネット循環情報が、たいへん深刻な問題になったので、世界情勢のモニタリングを仕事とする World Economic Forum は、これを、テロやサイバー犯罪とともに、現代社会の最大の脅威の一つと呼んでいる。

<http://reports.weforum.org/global-risks-2013/risk-case-1/digital-wildfires-in-a-hyperconnected-world/>

この Italehti 記事は、Vice Motherboard に英語で書かれた、ある論文を引用しており、この論文はまた、PLOS One に載ったイタリアの研究を引用している。

http://motherboard.vice.com/read/scientists-tried-trolling-conspiracy-theorists?utm_source=mbfb

<http://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0118093>

Italehti の最初のコメントに、主流メディアの内容のみが絶対に信用できる情報であり、これに対して、代替メディアの“陰謀論”は、うわさ、プロパガンダ、ニセ情報であるかのように言っている。陰謀とは、神秘的なおとぎ話のようなものであり、精神的に不安定な人たちだけが信ずるものだ、とこの記事は言う。この種の黒白的な考え方は、権威主義的な人格タイプに特有のもので、そういう人は、幼い子供が自分の両親につながっているのと同じように、ナイーブに社会的権威につながっている。

<http://www.sott.net/article/250295-Authoritarian-Followers-The-temptations-and-perils-of-blind-obedience-to-authority>

2 番目のコメントは、たいへん物騒なことを言っている。陰謀論に対する態度がおおむね嘲笑的であったのは、そう昔のことではない。今ではそれが国家的な脅威として受け止められ、テロリズムやナチズムに比較されている。フランスはすでに、危険な前例を作っていて、政府の観点からして、陰謀説や他の“危険思想”を載せるウェブサイトを、閉鎖し始めている。アルトゥール・ショーペンハウアーは、真理は 3 つの段階を通過すると言った——最初それは嘲笑され、次にそれは激しく反対され、そして最後に、それは自明の真理として受け入れられる。現在、我々は第 2 段階にいると思われる。

<http://www.sott.net/article/294149-France-intends-to-prohibit-the-dissemination-of-conspiracy-theories-on-the-Internet-by-equating-them-with-Nazism>

Italehti のニュース・ストーリーは、このイタリアの研究について更にコメントしている。この研究では、代替メディアは、社会メディアに対する“陰謀論”的振舞いによって評価されている——

その結果は、陰謀論者の観点から見て有難いものではなかった。イタリアの研究者たちによると、陰謀論サイト訪問者のうち 90 パーセント以上が、気に入りに、コメントし、代替メディアの内容だけを拡散している。研究者によれば、陰謀論者たちは彼ら自身の泡の中に住んでいて、彼らのサークルの外の内容とはほとんど交渉していない。

フェイスブックの「いいね」やコメントに基づく研究から、意味深い結論を出すのは難しい。この研究がモニターしたのは数値だけであって、内容ではない。この研究の対象には、同じような孤立したグループも含まれていて、それは科学ニュースを追跡しているが、コメントは代替ニュースに対するものがやや多くなっている。しかし、その内容が調べられていないので、このグループのやり取りは、主として陰謀論の“ニセ暴き”だったに違いない。もし彼らが、内容を調べることを厭わなかったなら、あるいはそれができたなら、彼らは自分たちの言っていることが馬鹿げていると直ちに気づいたであろう。“代替理論”論文は、主流論文に発表された内容、プラス、非常に重要なコンテキストを提供する、省略された細目に堅実に基づいている。言い換えると、代替理論が明らかにしているのは、自己完結的な情報の環——彼らの言葉では“泡”——の中に閉ざされているのは、主流論文の方だということである。

どちらが不健全であるのか？

実を言うと、Verkkomedia はある先行研究を引用しているが（因みに、それが引用している英語の論文は「新研究：“陰謀論者”は正常；政府体制派論者は狂って敵意をもつ」の中にある）、そこでは議論の内容が比較されている。陰謀論者と体制派論者の間のやり取りは、こう評価されている——

<http://www.sott.net/article/www.verkkomedia.org/news.asp?mode=4&id=8569>

<http://www.presstv.ir/detail/2013/07/12/313399/conspiracy-theorists-vs-govt-dupes/>

研究者たちのデータによると、公式の真理を疑うコメントの方が目立って通常だった：「集められた 2174 のコメントのうち、1459 は陰謀論者と分類され、715 は体制派であった。」ニュース記事についてコメントする人々の中で、9・11 やケネディ暗殺のような出来事の政府説明を信じない人々は、2 対 1 以上の割合で、信ずる人たちを上回っている。これが意味するのは、現在では一般的な知恵になっていることを主張したのはプロ陰謀論者であり、一方、反陰謀論者は、小さな包囲された少数者だったということである。

反陰謀論者はしばしば、陰謀論者よりも大きな怒りを示した。政府体制派論者は「プロ

陰謀論者よりもかなり敵意ある態度を取った」。また、研究者たちの指摘によれば、知識人がプロ陰謀論説明に対してもつ敵意の証拠は、彼らが陰謀論者を、偏執狂またはある意味で精神病だと決めつけることである。

公的眞実を支持する見解の人々とは対照的に、陰謀論を支持する人々は、ある出来事に対する自説とか特定の見解を主張するのではなく、公的説明が間違っていることを証明しようとする。反陰謀論者はこれに対して、陰謀論者の説明に反論するというより、自分自身の説明をますます多く提出する。この研究から明らかになったことは、自分自身の眞理にしがみつく敵意ある狂信者というステロタイプが、陰謀論者より公的眞理支持者に、より正確に当てはまることである。

ここから我々は、批判的に考える“陰謀論者”の方が、権威主義的な人々よりも、心理学的により健全であるに違いないと結論することができる。おそらく、陰謀論者と体制派論者の見解の違いが明白で最も典型的な例は、公的説明が現実にはかなり現実離れした陰謀論であるところの、WTC（世界貿易センター）攻撃に関する問題であろう。研究が証明しているように、公的物語を支持する見解の大半は、証拠そのものを分析して全体像を理解するというより、攻撃的な感情的議論を根拠にしている。

https://youtu.be/yuC_4mGTs98

陰謀という言葉は主にどのように使われるか？

“陰謀論者”という言葉は、正確にはどんな意味に使われるのか？ 主流メディアは、あるわら人形をつくり出していて、そこでは、眞理のすべての例外的な理解が、十把一絡げにされる——例えば、もしあなたが、ケネディの暗殺について（アメリカ人の61%がそうするように）公的物語を疑うとしたら、その場合あなたは、ビル・クリントンはエイリアンだとか、人間は月に行かなかったとか、エルヴィス・プレスリーは生きてるとか、ホロコーストはなかった、などと信ずる類いの人である。もちろん、批判的に考えることも評価もなしに、起っていることすべてに“陰謀”を見ることは、すべての公的情報に対してナイーブな無批判的な態度を取るのと同じく、馬鹿げている。

実際上は、誰でも出来事の経過について、絶対的な確信もなしに、これを疑ったり勝手な憶測を始めたりする人が“陰謀論者”である。例えば、人が死ねばこれを殺人と考える警察は“陰謀論者”である。彼らは、意図しない傷害と意図的な殺人の、両方の可能性を考えてみなければならない。

あなたは子供のとき、クリスマス前夜に、サンタクロースがやってくる直前に、お父さんが決まって店/隣人の家/地下室へ出かけることに、突然、疑いをもった経験がないだろうか？ あるとすれば、あなたもまた陰謀論者だった！ 実はそのように、大人であっても、子供がサンタクロースを信じるように、いまだに政府の無限の善意を信じている人たちがいる。



陰謀という言葉の一つの働きは、主流メディアが、公衆の議論の内容を制限することである。人が「好ましからざる人物」(persona non grata) という立場に立たされたくなければ、決して踏み越えてはならない知られた境界線がある。この言葉は、批判的な人々を否定するために、権力者によって使われている。メディアが、ロシアとプーチンに関する陰謀を扱うときの狂気じみたやり方を見ればよい。そこでは、あらゆる種類の虚偽のうわさや陰謀論が、無制限にばら撒かれ、主流メディアの長年の露骨な反プーチン・キャンペーンが、最近、私の国（フィンランド）では、「次はロシアを侵略すべし」というところにまで行っている。これは、単に信じられないような愚かさから出たものなのか、それとも完全に意図的なプロパガンダなのだろうか？ このような問いは、権威に従う人々や、主流メディアの信奉者たちのレーダーには、決して浮かばないものである。彼らはこの仕組みに、あまりにも絶望的に取り込まれ、その頭脳は実質的に「お上」から与えられたものになっている。

陰謀は社会システムに内在している

社会の構造の多くは、本来的に陰謀に傾きやすい。情報の流れが制限される、明らかなヒエラルキー構造がある。歴史家の Richard M. Dolan は、『UFO と安全保障国家：隠ぺいの年譜 1941-1973』という本でこう述べている――

http://www.amazon.com/UFOs-National-Security-State-Chronology-ebook/dp/B00CUU7PUG/ref=sr_1_3?s=digital-text&ie=UTF8&qid=1421614059&sr=1-3&keywords=richard+dolan

陰謀論というレッテルは、あたかも誰も秘密に活動する者などいないかのように、自動的に一蹴する働きをする。この問題には、ある見方と常識が必要である。アメリカはいくつもの大きな組織——企業、官僚組織、“利益団体”など——からなっていて、これらは本来、陰謀の習性をもっている。すなわち、それらはヒエラルキーをなし、彼らの重要な決定は、少数の中枢の意思決定者によって、密かになされる。そして彼らは、彼らの活動について嘘をつくことを何とも思っていない。それが組織の振舞いの本性である。“陰謀”とは、このカギ的な意味においては、地球全体に及んでいる一つの生き方である。

ドーランは続けてこう言っている——

過去半世紀においてアメリカの軍事および情報共同体によって企てられた、重要なほとんどすべてが**秘密裏に起こっている**。マンハッタン計画としてよりよく知られる核兵器製造の企ては、その後のすべての活動の大きなモデルになっている。2年以上にわたって、連邦議会の誰一人として、その最終コストが20億ドルを超えたにもかかわらず、それを知っている者はいなかった。

第二次大戦中とその後は、その他の重要なプロジェクト、例えば、生物戦争の開発、ナチ科学者の輸入 [ペーパークリップ計画]、期間的マインド・コントロール実験、何も知らない人民の郵便や電話の全国的傍受、メディアや大学への潜入、秘密のクーデタ、秘密の戦争、暗殺、こうしたことが米国民だけでなく、議会のほとんどの議員からも、何人かの大統領からも、完全に隠されて実行された。

実際、いくつかの最も強力な情報局は、それ自体、秘密に設立され、何年間も、民衆にも議会にも知る者はいなかった。

特殊部隊と空軍の統合参謀司令官 L. Fletcher Prouty 大佐は、『秘密のチーム』という著書で、情報局の役割に光をあてて、こう言っている——

<http://www.amazon.com/The-Secret-Team-Allies-Control/dp/1616082844>

第二次大戦が終わってからの四半世紀の、アメリカの他国との関係の管理における最も顕著な進歩は、本国と海外での、軍、財政、外交活動に対する支配力を、ますます拡大していったことだった。その担当者たちの活動は秘密にされ、その予算も秘密で、彼らの正体自体が、ほとんどの場合、秘密だった。要するに、それは“秘密のチーム”による仕事で、その活動は、それをモニターし理解する立場にある、内部関係者だけが知っていた。

これについてはジョン・F・ケネディも、1961年の「大統領と新聞」という演説で、この陰謀について述べている——

それは膨大な人的・物的資源を、一つの緊密に組まれた、高度な性能をもつ機械の建設へと糾合した組織であり、軍事、外交、情報、経済、科学、および政治的活動を一つに結合するものです。その準備過程は隠されて、公表されません。その過ちは秘密にされて、新聞には出ません。それに反対する者たちは黙らされ、褒められはしません。いかなる出費も疑問にされることなく、いかなる噂も印刷されず、いかなる秘密も明かされません。

言い換えれば、世界は、多様な、相互につながったネットワークをなす諸組織に満ちていて、それらは絶対的な秘密を保って活動することができ、誰も責任を問われることがない。そしてもっと重要なことは、あらゆる者が、暗黙のうちにこの社会の状態に合意していることである。世界中で、大企業は閉ざされたドアの後ろで決定をし、政治家とロビイストは大衆から隠れて契約の交渉をし、情報局は、彼らの工作を“もっともらしい否定可能性”のヴェールの下に隠すのである。そしてこれらの役者たちのすべては、程度の差はあれ、絶えず相互に接触している。時には、組織された犯罪と、公的な権威の境界線が消えることがあり、公的な政策がどこから始まり、組織された犯罪がどこで終わるかが、わからないことがある。個人あるいは団体は、ヒエラルキーを上にあがるほど、法の制限を越え、行動の罪を問われない、より大きな自由をもつことができる。



現実の陰謀のいくつかの例

次に、最近の歴史から、道徳的にも法的にも暗黒の側にある、情報局の隠れた工作とプロジェクトの若干の例を示すことにする——

エイジャックス作戦 (Operation Ajax) ——イランの民主的に選出された首相 Mohammed Mossadegh が、1953年、CIA と英の情報局 MI 6 によって倒された。モサデグはイランの石油資源を国有化しようとしたが、これがこの地方の西洋の石油会社の立場を危くした。この作戦は、純粋に地政学的な理由でなされたものだった。不法なクーデタが、一つの独立国の内部で、その資源を奪い、政治的立場を弱めるために遂行された。どこかで聞いたような話ではないか？

<http://www.sott.net/article/265107-CIA-finally-admits-it-masterminded-Irans-1953-coup>

http://en.wikipedia.org/wiki/Mohammad_Mosaddegh

<http://www.sott.net/article/275265-Imperial-Hubris-Ukraine-as-a-regime-change-too-far-for-the-American-Empire>

プロジェクト・MK-ウルトラ——この CIA の秘密計画は、催眠術、訊問、それに洗脳のテクニックを研究するのが目的だった。このプログラムは 1950 年代初めに始まり、1960 年代の終わりには中止された。いろいろあるが中でも、被験者は麻薬を与えられ、繰り返し暗示をかけながら、同時に電気ショックを与えられた。これは、人の人格を破壊しておいて再び元へ戻す試みだった。被験者は合意なしに選ばれ、何か月も隔離して拘束された。どこかで聞いたような話？

<http://www.sott.net/article/234912-Secret-Government-Experiments-Come-to-Light>

<http://www.sott.net/article/290319-Cruel-science-The-CIA-didnt-just-torture-it-experimented-on-human-beings>

ノースウッズ作戦 (Operation Northwoods) ——この 1962 年の CIA の計画は、1997 年まで極秘にされていた。その目的は、国民の世論を動かして、キューバの占領を支持させることだった。アメリカの飛行機を爆破するというのが、いろいろ計画された中の一案だった。ケネディ大統領が、結果的にはこの計画を実行させなかった。この作戦の筋書きは、ニセ旗のもとにテロ攻撃を実行し、これを他の国家 (キューバ) の仕業にすることだった。どこかで聞いたような話？

<http://abcnews.go.com/US/story?id=92662>

<http://www.sott.net/article/282575-Asymmetric-Warfare-MH17-False-Flag-Terror-and-the-War-on-Gaza>

グラディオ作戦 (Operation *Gladio*) ——第二次大戦後、連合軍はソ連による占領に備えて、秘密の隠れ軍隊を設けた。1990年、イタリア首相 Giulio Andreotti は、秘密の軍隊の存在を認め、これが別の国での暴露につながった。この軍隊は、爆弾の製造、暗殺、クーデタ、拷問、プロパガンダに使われていた。極右がテロ攻撃を仕掛けるのに利用され、これが極左の仕業にされた。これは一般世論をして、異なった集団を脅威と感じさせるように導き、これらの国家内部では、彼らは自分の支配を維持することができた。どこかで聞いたような話？

<http://www.sott.net/article/243373-Operation-Gladio-State-Sponsored-Terror-VIDEO>

<http://www.sott.net/article/291083-Paris-shooting-Who-profits-from-killing-Charlie>

このリストは非常に長く、もしその全部をおさらいしようとするれば、すぐにもスペースがなくなるだろう。読者は、もっと多くの既知の陰謀、すなわち“政府体制派”が陰謀と認めた陰謀について、この論文で読むことができる。

<http://www.sott.net/article/228696-33-Conspiracy-Theories-That-Turned-Out-To-Be-True-What-Every-Person-Should-Know>

~~TOP SECRET SPECIAL HANDLING NOFORN~~

THE JOINT CHIEFS OF STAFF
WASHINGTON 25, D.C.

UNCLASSIFIED 13 March 1962

MEMORANDUM FOR THE SECRETARY OF DEFENSE

Subject: Justification for US Military Intervention in Cuba (TS)

1. The Joint Chiefs of Staff have considered the attached Memorandum for the Chief of Operations, Cuba Project, which responds to a request of that office for brief but precise description of pretexts which would provide justification for US military intervention in Cuba.

2. The Joint Chiefs of Staff recommend that the proposed memorandum be forwarded as a preliminary submission suitable for planning purposes. It is assumed that there will be similar submissions from other agencies and that these inputs will be used as a basis for developing a time-phased plan. Individual projects can then be considered on a case-by-case basis.

3. Further, it is assumed that a single agency will be given the primary responsibility for developing military and para-military aspects of the basic plan. It is recommended that this responsibility for both overt and covert military operations be assigned the Joint Chiefs of Staff.

For the Joint Chiefs of Staff:

L. L. Lemnitzer
L. L. LEMNITZER
Chairman
Joint Chiefs of Staff

SYSTEMATICALLY REVIEWED
BY JCS ON 27 May 84
CLASSIFICATION CONTINUED

1 Enclosure
Memo for Chief of Operations, Cuba Project EXCLUDED FROM GDS

EXCLUDED FROM AUTOMATIC
REGRADING; DOD DIR 5200.10
DCES NOT APPLY

~~TOP SECRET SPECIAL HANDLING NOFORN~~

ノースウッズ作戦メモ、表紙のページ

公的文化、非公的文化

リチャード・ドーランは著書の中で、「公的」文化と「非公的」文化について論じている。時々、以前にはタブーだった話題が、「公的」文化の一部となる。例えば、今日、多くの西洋諸国で流布された公的文化によれば、飽和脂肪は心臓病の原因となるが、スウェーデンではそうならない。第一次大戦の旧来の歴史では、ドイツが悪いことになっているが、現在、すぐれた研究を通じて定説となっているのは——まだ公的文化に取り込まれてはいないが——秘密のアングロ・アメリカン・エリートが、「すべての戦争を終わらせるために」計画したというものである。

http://www.amazon.com/UFOs-National-Security-State-Chronology-ebook/dp/B00CUU7PUG/ref=sr_1_3?s=digital-text&ie=UTF8&qid=1421614059&sr=1-3&keywords=richard+dolan
<http://www.sott.net/article/294961-Book-review-Hidden-History-the-Secret-Origins-of-the-First-World-War>

今のところ、公的文化によれば、陰謀は、歴史的なせんさく好きの話題としてのみ許されている。それらは現在起ってはいない。とはいえ、ロシアや北朝鮮、大半の南米や中東諸国では例外で、それらは時々、西側の利益を挫こうと陰謀を企てている！ したがって、再び逆説的なことに、紛争が起った場合には、これらの国々の政府が常にウソつきの側で、“陰謀論者”か、ひどくナイーブな人間だけが、それを否定するのだと、わかりきったことのように言われる。更には、公的文化によれば、西側の陰謀は今日、個人レベル（殺人や他の犯罪のレベル）で、そしてある程度は集団で行われるのは、可能またはあり得ることだが、**本当に政治的影響力をもつ人々の間では、絶対にありえないことなのである。**

そこで一つの例として、一番大きなフィンランドの新聞 **Helsingin Sanomat** は、多くの西洋国家の大新聞と同じく、公的文化の守護者のように機能しているが、この新聞を観察していると、この考えがよく要約されていることがわかる——もしあなたが、**石油の値崩れはロシアに対する商業的戦争行為の結果のようだと考えるなら**、あなたは、ある「緑の党」の政治家が気象変化の黒幕だとか、**Sarah Palin**（米保守政治家）が人類を滅ぼすためにインターネットを開発したのだとか、信ずる人たちの仲間になれる。これは、この新聞を指導する知識人たち——フィンランドの公的文化の守護者たち——が私に言ったことである。

政治的な問題になると、主流メディアはどこでも、そのように極端に一方的な偏見をもった態度を示すのではないだろうか？ どの国でも、フィンランドの **Helsinki Sanomat** のような大新聞のページで、グラディオ作戦の説明が読めるようになるのは、いつだろうか？ 大

新聞はいつになったら、西側諸国の不法なクーデタ、自国市民へのスパイ行為、暗殺、拷問について、分析記事を提供するのだろうか？ 第二次大戦後にアメリカが行った、推計2～3千万の人々を殺した軍事行動の調査研究については、どうするつもりか？

<http://www.sott.net/article/273517-Study-US-regime-has-killed-20-30-million-people-since-World-War-Two>

我々は、ごく最近の、東部ウクライナからの助けを求める声を、聞くことさえあるだろうか？ 酔ったキエフの兵士たちが装甲車を運転して、母と2人の娘を轢き殺し、その後、正義を要求する住民たちの抗議行動と暴動を、キエフ政府が弾圧したというようなニュースを、我々は少しでも聞いただけだろうか？

<http://www.sott.net/article/294051-Winning-hearts-and-minds-in-Eastern-Ukraine-Mother-and-daughters-deaths-at-hands-of-drunken-soldiers-sparks-riots-in-Kiev-held-territory>

公的承認を、息を殺して待っていても埒が明かない。そうあってもらいたいと思うメディアに、あなた自身になることである！